


連絡船上の博士六箱六箇のお土

東京城より安州 新襄州奉天
 流行を又引返して京城より元山方面
 を見よした尙餘一帶を懸ながら日子
 を経て又あなたが残念なかり子
 の都合は一掃切り歸京し三月下旬
 の實施


街の整備にして全く關東の想があ
 ることである。十日寺内總督閣下
 始めて面晤の榮を得ましたが、君
 殖民地としては亞弗利加外六七割
 の實施

大貨物が出来上つた、私普及し顯著なる良成績を擧げ

7
出で、經良十三名



2



三、一二二三で取勝てゐるといへば又、意外な運慶が紳士、と罵りもなく可笑なうて、扇ふなまツツの中へ、取りまづ、十三のサベルが、左様な、おかしな、なり持つて行き、所のない、筆箱をなまツツの中へ、取りまづ、取り、御燈の動つたのはと、隠々隠々してゐる。

四、御燈が、鳴りたなうとなつたので、二三の間、真いものが、鳴つて来るが、御燈に、寄付、例つて、一問ふたなく、御燈も、たなく、

漢書卷之四

[illegible]

電話二六三七
黃金館

後の五人、撥ける。斯の、鎧、思ふ
 死となりて、奮然と上る。これに、連れて、奮
 目、醒まして、生田川、陣、選手、の、決
 戦となるや、戦、固、急を告げ、拍手の

所収 自新報 三巻 二下

新報 佐久良殿

女お安、丹次郎（都島）文子、藝妓
（同）下女お友、藤島、千分八藏

上海に向け約二箇月の豫定を以て
 海外布敷の途に就けり。因に諸大
 連其他の都會にも布敷すべしと
 告ぐ。

日新日報 三月十四日

明治三十四年三月十四日

浪花

大坂陣難渡戰記 全六册
 久松 義久
 大助仙太郎
 新石川太郎
 新石川太郎
 新石川太郎

夜五時半開演仕り候

<p>石渡氏 正視に對し記名投票入</p>	<p>純金代指輪 じんぎんさびり むだいしんてい</p>	<p>無代進呈 むだいにしんてい</p>		<p>募集</p> <p>東京大阪各所 赤毛からあめぞめ</p>	<p>安全全方オ</p> <p>特長 まけず かぶれず はげず よこれず まつよく つやよく そろそろ</p>	<p>酒清良醇</p>	<p>發賣元 今井商店</p>	<p>大邱東城町二丁目電話三四〇</p>	
---------------------------	--------------------------------------	--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	-------------	-----------------	----------------------	--

オウトル號
井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

井上自轉車商會
大邱元町二丁目電話四二七
▲支店 金堤 岡山 宿州

大邱覆審法院通譯生山之井麟治著

●訂正 再版 增補

●解譯自在 ●習慣窺知 ●事務敏捷 ●攜帶至便

●四六版 ●定價五十五錢

●三餘餘 ●郵費六錢

●發行所 井上自轉車商會

●解譯自在 ●習慣窺知 ●事務敏捷 ●攜帶至便

●發行所 井上自轉車商會

最上醬油

龍

位本質品的對絕

譽名の一唯界造釀滿鮮

會進共產物朝年五始於

領受牌金

港川仁元造釀

社會式株油醬本日

所張出城京

特許機械製

呈送錄目

●完全無比の霸王グラス萬年筆

●實用經濟の霸王グラス萬年筆

●數百銀行會社其他團體にて多

●朝鮮總代理店

●東京本町三丁目(電話四四五五) 振替東京三三六

●東京本町三丁目(電話四四五五) 振替東京三三六

創見的な新式の説明

●訂正 再版 增補

●解譯自在 ●習慣窺知 ●事務敏捷 ●攜帶至便

●四六版 ●定價五十五錢

●三餘餘 ●郵費六錢

●發行所 井上自轉車商會

ライオン
齒磨試驗室

電話 三三六六
電報 三三六六
發行所 東京 日報社
本 埠 一 丁 目
社 址 東京 日報社

廣度の邦土を開拓して無盡の富源に
 化し、新報の民衆を奮發して治平の
 機に潜せしめ、以て帝國の基礎を磐
 石の安きに置き、東洋の平和を確保
 せんと欲する、大抱負、大目的、大
 運維より見れば、今日の統治成績は
 きたるに過ぎざらんデシヨンを空
 しく其の經營は若く其の歩を進むるに從ひ
 大に爲す可きこと、又爲さざる可
 からざること、多々益々多きを加ふる
 に於てを乎、今之れを最も進歩發達
 顯著なりと稱する工業に就て一言
 せば、農業は外人及び内地人の漸大
 勦勢力行の結果により、其の產額
 頗る増加し、各種の品業之れに伴う
 て勦略の機運に向ひたりと稱したる
 も、是れ聖戰多年の趨勢を轉じ、た
 るに過ぎずして、其の大改良は今後
 の施設に待たざる可からず、又工業
 の如きも併合以來、企業に對する機
 運を誘致し、工業額大に増加したりと

れば寧ろ總督も今國親民一般に下し
 たる諭告に於て「統治五年間の成績
 は唯だ僅に創業の効果を收めたるに
 過ぎず、故に將來の大成を期せんと
 欲せば更に一層奮勵要す」と云ひ
 又「若し其れ陛下の進歩に満足して
 心驕り氣緩むが如きことあらば、嘗
 に既成の効果を空うするのみならず
 將來の大成を期するに由なかる可
 し」と訓諭せられたるは、國民の宜
 く銘記す可き言であらばあらう
 總督の此の發告を服膺せば、朝鮮に
 於ける將來の進歩發達期して俟つ
 可きなり、然れども今や朝鮮統治の
 一進轉機に達ひ、聊か吾輩の之れに
 對する意見を開陳し、以て當局者及
 び吾同胞の參考に供するも、決して
 無用の前章にあらずと信ずる也

正興 前章中、寺内總督の詠歌は
 「荒れ果てし此の山川を如何にし
 て我が大君の目に答へむ」の誤り
 に付訂正す

の地に亘た、彼れの曲線、八九年に
 西貢鐵道の日に附りて、一八二一年鐵
 道が建設せられたに於て、マリカト
 西貢鐵道の日に附りて、一八二一年鐵
 道が建設せられたに於て、マリカト
 西貢鐵道の日に附りて、一八二一年鐵
 道が建設せられたに於て、マリカト

人口論の動機 マルサスの
 名著人口論は原名で譯すれば「人口
 の原理、其の人類社會に及ぼせる過
 去現在の効果に關しての論述」と謂
 う、而して其人口論なるものは元來
 彼れの創見ではない、往古フランド
 アリストテレス既に之を説き、十七
 八世紀の唯歐米諸國の哲學者も亦之を
 説いたのである、乍併何れも部分的
 之を論じたに過ぎずして、之を厥
 緒一貫組織的に開陳せるものは實に
 マルサスの偉功に歸せなければなら
 ぬ、彼れは人口論の大基礎を作つた
 ものである、從て彼れの名が不朽で
 あるのは決して偶然ではない

彼の父デニエ、マルサスの手記

二月十四日は人口論の著者として有名なトーマス・ロバート・マルサスの誕生後滿百五十年に當る、凡そ經濟學を修むるものは人口問題に關して先マルサスの名を知らずには濟まない、彼は實にアダムスミスの流れを汲むる所謂スミス學派の巨星として知られる。其の著書として有名な人口論は、譯文に就いては、八〇年、現行の譯文第二版を川原で世に出た、是れ即ち當時の通譯マルサスの人となりをよく示してゐる。この譯文は、明治の初めに、一八〇五年、東京で出版された。一八〇五年に創立する、彼は濟生學をせられ、史學經濟學の教授となつ、爾來續々人口論の第一版であつた、即ちマルサス

時事を能く論じた、當時キリヤムゴツドウィンといふ人が書を著して社會、將來の改良に關する樂善好施の意を述べ、父は此說に賛し、マルサスは之に疑念を挿込んだ、而して彼れは秘密の人となつて、枉々辛苦長篇の一論文を書いた、是れが人口論の第一版であつた、即ちマルサス

の著者として有名な人口論は、譯文に就いては、八〇年、現行の譯文第二版を川原で世に出た、是れ即ち當時の通譯マルサスの人となりをよく示してゐる。この譯文は、明治の初めに、一八〇五年、東京で出版された。一八〇五年に創立する、彼は濟生學をせられ、史學經濟學の教授となつ、爾來續々人口論の第一版であつた、即ちマルサス

其共其學說を聞し聊か記念したい
△彼れの略歴 彼れロバート・マルサスは七十六年イギリスのマンチンに生れた。少くして父の業を継ぎ、父は「エニメル・マルサス」云つた。幼して聰明、十歳にしてアトリス及びウエグクワイレス等に放浪遊蕩を受け、十九歳の時に大船に乗って、南緯洋を航海し、二十三年ニューヨークに上陸し、フリーツと名づけ、三十三歳で「マブ・ア・ラック」となるといふ。
ローアの地位を得、蘭校の校長に擧げられたが一七八九年よりして、憎悪となつた。然るに七十九年には危機を一過するも、復舊した。是れに判せられ、七十八年に有名な「人口論」を發表して居る。然るに當時の學者皆之を嘲罵の論議を以て却り、彼の命を有するものとして可なり。故に亦其所方にて死す。或いは「我々」云々といふ所ありて死す。

○中樞院の健會か、あれは結構な事だ、我輩大に賛成する、彼の演説の要旨に於て、始政五年は僅かに其創業の効果を收めたるのみ、大成を期するには自ら戒むるご共に、一般官民の覺醒を促すと言はれて居るではないか、して見れば總督は大に今後行ならんであらうと思ふ。

○侯は石龍子の弟子ではないが、石龍子は相友だ、依つて性相事の初步位は心得て居るよ、その性相事的的眼光を以て見れば、總督の明眼は大に鋭起して居る、あの頭蓋ではあるに警策力もあれば又包容力もあると思ふ。

○或人は總督は人言を容れぬと聞かないか、我輩より曰へば寧ろ立案的

ふ、決して然らず、性相的に論ずるもの、實際推した輕敵より言ふも、決して人言を容れざることは惜しい、又成人は非立憲だと言ふ、我れはいかならず、抑も立憲と言ふは何處のウナリを標準とするのか、美とか米とか何ぞとか、西洋諸國を標準とするれば非立憲と云ふ、我邦の憲法を土產とし、其憲法に基いた法規に據つて政治をするものを立憲的と謂はば、我寺肉體の如きは真正に法規を守り、總督の如きは真正に法規を爲たりと云ふを問ふべからず、又世に云ふ重臣の如きも何處にあるか、我輩未だ之を知らぬ。寧ろ真正正路に法規を守つて居るだけではないか、我輩より曰へば寧ろ立案的

朝鮮米倉庫難 大阪商船會
 には昨年十二月末船價不足の船
 海航路の船舶と朝鮮航路に繰入
 遠隔の盤割を圖つたものが従來停
 送なりし朝鮮米は之れと同時に傳
 送され一月以降の六國入津船の激
 したるも一時十四五萬噸の移入と
 港邊の各倉庫は勿論各埠に荷役
 能はず今尚ほ堤岸は盤港に停滯
 居る有様にて朝鮮貨物組合にては
 頻りに事後策を講じてゐるが
 三月に至りなほ朝鮮米十五六萬
 と密薩薩州州萬餘萬噸の倍にて各
 庫其餘地なきに困窮を感じ居れり
 ざるものと云ひたいのである。
 我輩は立憲政體を希望するに血
 流したものである、故に立憲には
 の字を冠することは大に忌むも
 である、却つて法蘭の如きはも
 と寛大にやつて貰ふことを希望す
 ものである。尤も内地と殖民地と
 目から相違のあるのは勿論である
 又朝鮮は官督民率と云ふ、なに
 して之れも人の言ふやうな思は
 但だ朝から晩まで正式であるか
 官督民率と言ふが、時々之れに非
 正式の事を希望すると共に、公式
 のは一層嚴重に行つて貰ひたいと思
 我輩も一寸隙米を取つて居るが
 米に於ては正式の事と云へば日本
 子等が厭である、彼には非公式の
 が半ばあるから、それで鐵道で式
 居ると思ふ。

二月なる山の眞木々はみなしづ
 かに芽ふきは待つところ、南花
 我輩の若葉の蔭にいろはやく君は
 うたひし小娘なりけり、青水
 君に逢はば先づ何言を語らんか
 く思ひつゝ今日も暮れける、白露
 やめし酒飲むなと告げ來それまた
 うさましき人にはあれど毎來る
 そのならはしに今日も待たぬ、自然
 人はみないそ價なきはこらひを已
 れに認め生きてあるもの、春潮
 つちくれを食ひてもひたに氣を解
 る土與て君ならひそ、同人
 不平、不満、虐げられし若人の心
 荒野をかき廻ぐるなり、玉村
 あかつては牛にも劣る兎しわが
 キリストもかゝりしものか
 自らを強しとすればするに増し重
 き憂のいゝまさりくる、坂勇
 世に背き人に背きし若子の悲し
 や桜はまた渡さる、青丘
 ぎやぎやぎや、鵲啼けば夕されば
 旅の心は酒ほりやます、幻花
 油じみし紙下をはく朝なけり我が
 下宿生活の淋しまれけり、義長
 今日も亦淋しき日かな起き出で、
 大なる火鉢にはよ枕をつく、同人
 醒れては我を叱れど相見ては我れ
 に迷へり睡まぬものかな、鶴舞
 はつきりと我れに向ひて我生きむ
 能く、に我のさし附てき、舞兒

昔床しき源氏椿、紫宸殿を始め親
王官女五人囃し丁雪洞其他附屬
品一切花やかに陳列御來觀待上候
二月十五日より
◆新柄帶側陳列會
春先きの御召物に調和よき流行品
恰も春の花の如く千紫萬紅取揃へ
御清覽に供し候

越吳服店
町本城京

至廉至便の國民百科辭典

大正國民年鑑

四六版壹千頁 並製五十錢 上製壹圓 郵稅各八錢 民友社發行
一千頁五十錢の圖書ありや

紙價の暴騰は印刷料の値上げとなり、遂に出版界は既刊書籍の二割増しを決議せりされど國民年鑑は依然として壹千頁五十錢の安價を支持せんことを抑も本書の各社に歡迎せらるる主なる理由は、其の實益無比無盡蔵なること、定價の至廉他に匹儔を見ざる點にあり。今や出版界は紙價の暴騰、印刷料の値上げを以て大恐慌に襲はれんとす。されど國民年鑑は暫く此の恐慌に影響さるることなく、普く各社會人士の註文に應ずべし。蓋し本社は本書各種の原料を事前に仕入し蓄へるが爲に外ならず。今後若し本社貯蔵の各種原料盡くるが如きことあらば、或は値上斷行の已むなきに至るやも計られず。値上の厄に逢はざる内至急御註文あらんことを切望す。

取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

物品購買公告

溥儀利
物上保
此入札
價金各目見發金高一百
拾四圓式合款付

給納贈五
人札附二
熟心得壹月十四日正
同庶務係一入札止

大正五年二月十五日
京 城 府

購買入札

幸統
品
入札希望者ハ本日以降
詳請府官に見る

天正五年二月十四日

警務總監部

國產

白檀油代用藥

ガルサソ

池田製薬所
東京市本町

大阪市中津町
三友製薬合名會社
大坂造修町
武田長兵衛
小西新兵衛


發賣元

二月一日附廣告ノ廠材規定寸法申左記追加ス
挽材 三寸二・一・五分角
尙挽材ノ内一割尚ニ販買スル規定寸法以外ノモノハ並上以上ニ限ル

木材業者 木材需用者 諸君ニ告ク

朝鮮新義州 朝鮮總督府營林廠

大正五年二月六日



二月十日より

◆ 鑑人形陳列會

昔床しき源氏椿、紫宸殿を始め親
王官女五人囃仕丁雪洞其他附屬
品一切花やかに陳列御來觀待上候

二月十五日より

◆ 新柄帶側陳列會

春先きの御召物に調和よき流行品
恰も春の花の如く千紫萬紅取揃へ
御清覽に供し候

三越呉服店

町本城京

主 廉 至 便 の 國 民 百 科 辭 典

大 正 國 民 年 鑑

四 八 版 壹 千 頁 並 製 五 十 錢 上 製 壹 圓 郵 稅 各 八 錢 民 友 社 發 行

一 千 頁 五 十 錢 の 圖 書 あり や

價の暴騰は印刷料の値上げとなり、遂に出版界は既刊書籍の二割増しを
議せられ、國民年鑑は依然として壹千頁五十錢の安價を支持せん
抑も本書の各社會に歡迎せらるゝ主なる理由は、其の實益無比無盡藏
るに、定價の至廉他に匹儔を見ざる點にあり。今や出版界は紙價の暴騰
印刷料の値上げを以て大恐慌に襲はれんとす。されど國民年鑑は舊く
の恐慌に影響さるゝことなく、普く各社會人士の註文に應ずべし。蓋し
本社が本書各種の原料を事前に仕入し蓄けるが爲に外ならず。今後若し
社貯藏の各種原料盡くるが如きことあらば、或は値上斷行の已むなきに
なるやも計られず。値上の厄に逢はざる内至急御註文あらんことを切望す

取次所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

和) 離にても将棋
の指せる業工
發兌東京
大正五虎

奉天城眼下に在り

第一電 (三時四十分) 特派員 勝村長平發
空中より總督衙門北大營訪問
十三日午後三時四十分、奉天城の上空より、總督衙門北大營を訪問した。奉天城の周囲を一周、空中より總督衙門北大營を訪問した。奉天城の周囲を一周、空中より總督衙門北大營を訪問した。

奉天城の周囲を一周、空中より總督衙門北大營を訪問した。奉天城の周囲を一周、空中より總督衙門北大營を訪問した。奉天城の周囲を一周、空中より總督衙門北大營を訪問した。

帝王になりたくなる心理

袁總統の胸の中 我輩が揣摩すれば
袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば、袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば、袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば。

袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば、袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば、袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば、袁總統の胸の中、我輩が揣摩すれば。

今が稽古の眞最中

丸亀藩士の意気込 白水奥の間の修練場
丸亀藩士の意気込、白水奥の間の修練場。丸亀藩士の意気込、白水奥の間の修練場。丸亀藩士の意気込、白水奥の間の修練場。



白水奥の間の修練場、丸亀藩士の意気込。白水奥の間の修練場、丸亀藩士の意気込。白水奥の間の修練場、丸亀藩士の意気込。

露國の信管製

作急を急ぐ
露國の信管製、作急を急ぐ。露國の信管製、作急を急ぐ。露國の信管製、作急を急ぐ。

露國の信管製、作急を急ぐ。露國の信管製、作急を急ぐ。露國の信管製、作急を急ぐ。露國の信管製、作急を急ぐ。

朝鮮煙草株式會社

新製品大賣出 中巻細巻の煙草を製
朝鮮煙草株式會社、新製品大賣出。朝鮮煙草株式會社、新製品大賣出。朝鮮煙草株式會社、新製品大賣出。



品名	数量	価格
一等貴婦人持金	100本	2.50
二等貴婦人持金	100本	2.00
三等貴婦人持金	100本	1.50
四等貴婦人持金	100本	1.00
五等貴婦人持金	100本	0.50
六等貴婦人持金	100本	0.30
七等貴婦人持金	100本	0.20
八等貴婦人持金	100本	0.10
九等貴婦人持金	100本	0.05
十等貴婦人持金	100本	0.02

